

4 国民国家の形成

「国民国家（ネイション・ステイト）とは、一定の領域と主権を備えた国家で、その中に住む人々が国民としての意識を共有している国家」（中井義明他著『教養のための西洋史入門』p. 193

どのようにして国民としての意識を共有するのか？その統合原理は？

1) イギリスの国家形成

16 世紀 イングランド 主権国家形成

1536 イングランド、ウェールズと合同

1707 イングランド、スコットランドと合同（連合王国 U.K.）

1801 イギリス、アイルランドと合同

異なる民族、言語、文化、歴史

イングランドによる併合

どのようにしてイギリス人（British）という意識を形成するのか？

帝国の存在 「帝国からの受益意識」 ex. スコットランドとの合同

第二次百年戦争 フランス＝カトリック - イギリス＝プロテスタント

アイルランドの微妙な位置付け

フランスの国民意識は？

2) フランス

-17 世紀末 国家の領域ほぼ確保

フランス革命 領域内の法的、経済的統合

国民意識？

1870, 80 年代 - 国民意識の涵養

1879 「ラ・マルセイエーズ」 国歌に制定

1880 「7月14日」国民祝祭日（建国記念日）

マリアンヌ（自由と共和国の象徴）の彫像 パリのナシオン（国民）広場をはじめとして全国各地の市町村役場、学校、広場に設置

1889 大革命百年祭

5.5. パリ万博開会式（全国三部会の開催日）

その後も万博会期中に革命を記念する祝祭が並行して開催される。

過去の「歴史的体験」の選別、切り取り

→共通の「国民的記憶」として制度化

小学校における国民教育

『プチ・ラヴィス』

『二人の子供のフランス巡歴-義務と祖国』

フランスという国家が掲げる共和政の原理を受け入れる人々がフランス人とされる。

3) ドイツ

ナポレオン戦争の衝撃

ドイツ国民意識の形成

1807 フィフティテ「ドイツ国民に告ぐ」と題した連続講演を行う

→フンボルト「ドイツは一つの国民、一つの民族、一つの国家である。（略）ドイツは自由で強力でなければならない」

その限界

1815 ドイツ連邦成立

1848 三月革命→フランクフルト国民議会成立

大ドイツ主義的統合決議 オーストリア拒絶 ハプスブルク帝国の不可分性

小ドイツ主義、民主的なドイツ帝国憲法を採択 プロイセン国王を世襲皇帝に推戴

ヴィルヘルム4世拒絶 「革命」 プロイセンの非ドイツ的性格

1861 イタリア統一

1862 ビスマルク、プロイセン首相に就任

鉄血演説「現下の~~大問題~~は~~言論や多数決~~——これが1848年、49年の大きな間違いであった——によってではなく、鉄と血によってのみ解決される」

1864 デンマーク戦争

シュレスヴィヒ・ホルシュタイン問題

1866 普墺戦争

北ドイツ連邦の形成

1870-71 普仏戦争→ドイツ帝国の成立

王朝的統一

→ 言語、人種というエスニックな要素に統合原理を依拠 cf. フランス
アルザス・ロレーヌ問題とフランス、ドイツの統合原理

排除による統合

社会帝国主義の追求

参考文献

アギュロン、モーリス『フランス共和国の肖像 -闘うマリアンヌ 1789～1880-』阿部雄二郎他訳、ミネルヴァ書房、1989年

コリー、リンダ『イギリス国民の誕生』川北稔監訳、名古屋大学出版会、2000年

谷川稔『世界史リブレット35 国民国家とナショナリズム』山川出版社、1999年

ノラ、ピエール編『記憶の場』全3巻、谷川稔監訳、岩波書店、2002-2003年